

# 篆 刻 研 究

## 篆刻研究

佐藤 焯 水

「今月の課題は「温故」とする。

今月の課題は論語の為政編の「子曰 温故而知新 可以为師矣」から転借した「温故」とする。

訓読は「子曰く故きを温たずねて新しきを知れば 以つて師たるべし」で、意味は、「孔子先生がおっしゃるには、古来の学問を勉強しそれを基礎として新しい学問を究め、実際に役に立つようになれば、多くの人々の先駆者となるる」といったところか。

今回の課題は、よく知られた熟語である。自信のある方は「温故知新」と刻してほしい。

参考作品



藤田秋風

直線を主にした構成  
の中に曲線が美しい。



藤真右京

甲骨文字風の味わい深い  
印。少し腐蝕がほしい。



塚本青娥

線の瘦肥が冴えている。遊  
印としても十分に使える。



高田碧波

小篆でまじめに作っている。  
「以」の余白が美しい。

【出品規定】 しめきり：十二月十三日

- ① 印(印影)の大きさは3センチ以内形は自由です。楕円・長方形等も可)
- ② 印影を白の半紙1/4に押印し、右側に条幅出品券を貼ってください。
- ③ 応募資格に特に制限はありません。
- ④ 課題文字以外の随意作品も出品できます。消しゴム印も可。